

県社協のひろば

民生委員児童委員の一斉改選行われる

十二月一日、民生委員児童委員の一斉改選が行われ、県内に一万九百二十二人の委員が誕生しました（区域担当民生委員児童委員九千八百九十七人、主任児童委員千五百人）。このうち新しく委嘱された方は三千六百五人。全体の三三・一％で前回改選時とほぼ同じでしたが、中には四〇％を超える地域もあるなど、地域によって格差がみられました。また、委員定数が二百三十五人増員され、一万千二百二十人とされましたが、その二％にあたる二百二十人が欠員の状態でスタートするなど、民生委員児童委員の担い手が、地域の中で見つけにくくなっている状況が広がっていることも浮き彫りになりました。

今、民生委員児童委員は「社会福祉に関する活動を行う者」として、地域福祉の推進に努めることが期待されています。

措置から選択への福祉制度の変革の中で、制度からもれてしまう人や何らかの理由で利用されない人への対応も求められています。

さらに、社会的問題となっている虐待や暴力、ホームレス等の問題を始め、不安や孤独、孤立、引きこもりなど、心の問題を抱えている人々への支援も期待されています。

こうした活動を進めていくためには、地域住民との信頼関係を築くと同時に、様々な団体や機関と連携し、民生委員児童委員が信頼

される良きパートナーとなる必要があります。大変な役割ですが、反面やりがいのある活動でもあります。皆様の今後の活躍を大いに期待したいと思います。（生活支援担当）

福祉教育・ボランティア学習学会開かれる

十一月二十七日・二十八日、県立保健福祉大学（横須賀市）で「日本福祉教育・ボランティア学習学会第十回かながわ大会」が開催され、全国の福祉・教育関係者約四百人が参加しました。本年度十回目となる本大会は、福祉や教育改革の中で広がりを見せ、課題ともなっている福祉教育・ボランティア学習（※）の推進に向け、実践的な研究や情報交換を行ってきた「日本福祉教育・ボランティア学習学会」が、これまでの研究成果を示すとともに、全国的にも先駆的に活動に取り組んできた、本県での実践の掘り起こしを行っていくと開催されました（主催：同学会、第十回かながわ大会実行委員会、共催：県立保健福祉大学、横浜市・川崎市・横須賀市社協、本会）。

記念講演「福祉の心とボランティアスピリット」では、県立保健福祉大学・阿部志郎学長が、開港百五十周年を迎えた横須賀市にゆかりの方々の功績を紹介しながら、異文化の町、そして軍港の町として発展してきたこの地で培われてきた福祉の心を紹介し、「ボランティアとは、豊かで強さを尊重する中において、弱さと共に生き、新しい生き方を切り拓いていくもの。始めの一足を踏み出す時には挫折や絶望が伴う。それでも新しいタネを撒き続けることができるよう、実践を理論化し支援していくことが大切」と、福祉や教育

に携わる方々へ提案されました。

課題別研究・特別分科会では、「かながわからの発信」と題し、本県内で取り組まれてきた、「高校福祉科での福祉教育実践」や「高校生と作る障害児の余暇支援」、「精神保健ボランティア活動」などの活動実績を紹介。参加者とともに今後の課題などを語り合いました。

また、自由研究発表・実践報告では、「かながわからの実践報告」として、川崎市立川崎高等学校や県立保健福祉大学の学生らが、本県の福祉教育実践の歴史をたどる研究成果を発表。活動の軌跡を検証することで、実践を伴った活動の強さや積極的に学ぶことの大切さを学んだという生徒たちの発言に、福祉教育やボランティア活動が生み出す成果や活動の意味を改めて感じさせられました。そのほか、外国籍児童や非行・不登校の子どもたちを支援する活動、車いす体験学習を支援する活動など、多彩な報告がなされ、これまでの枠にとられない福祉教育のあり方を示唆するものとなりました。

（かながわボランティアセンター）

※主に児童・生徒を中心に行われてきた。現在、住民の社会福祉への理解と関心を深め、参加を促すための学習が課題となっている。



昭和25年、全国で最も早く福祉教育に取り組んだ本県の歴史を発表する市立川崎高等学校の学生